週刊
明るい小矢部
赤旗 読者通信 改題
2022.7.17
通巻No.1566

日本共産党
小矢部市委員会
市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

何でも
ご相談を

市議会議員
砂田喜昭
TEL 67-4322

前参議院議員
たけだ良介

市議予定候補
上田由美子

禁無断転載
複写配布

学校統廃合の断念を

砂田市議の一般質問（2）

【砂田市議】２０１９年12月に出された小中学校統廃合審議会の答申は、コロナ禍の前に出され、分散登校、少人数学習を経験し、不登校児童生徒数が減少するなど少人数学級の素晴らしさを体験する前につくられたものだ。また、国が少人数学級に一歩踏み出す前に出されたものだから、この「答申」を絶対視することはできない。

ぜひともこの場で、学校統廃合計画の断念を明言していただきたい。

「答申」をそのまま決定するのではない

【教育長】この答申をそのまま市長が決定するというものではない。答申の趣旨を十分に尊重した上で、現在のコロナ禍のいろんな経験や、他の学校のやり方を加味した上で、これから決定していく。ぜひ保護者の意見も伺いたいと言ったのは、新型コロナの関係で教育の仕方が微妙に変わったが、その経験も（保護者に考えてもらう上で）大変必要でないかと思う。

多人数学級支援講師の復活を

【砂田市議】多人数学級支援講師をぜひ復活させる必要があるのではないか。市は、スタディ・メイトで同じように対応するというが、勤務時間は、スタディ・メイトが週３日で年間１１３日、多人数学級支援講師は週５日で年間２００日。これだけ差がある状態で、30人を超えるクラスで担任の手助けが本当にできるのか。例えば担任が30人を超えるクラスで連絡帳とか提出プリントとか宿題とかを点検・丸づけをする余裕がない。多人数学級支援講師ならできた。スタディ・メイトでこういうことができるのか。

【教育長】今年度から多人数学級支援講師の配置を廃止して、代わりにスタディ・メイトによる対応としている。現在、小学校の１年生から３年生までの31人以上の４学級には、教員の有資格者４名のスタディ・メイトを配置している

主に児童の日常生活の支援であり、担任に代わって丸つけとか授業の教材準備などは原則できない。

【砂田市議】これまでの話では、スタディ・メイトでちゃんと担任の補助ができるようにすると言っていた。これは改めていく必要がある。

30人以下学級を早く実現しなければならないが、それを早く実現させるためにも、その手助けとして小矢部市がこれまで永年やってきたよい芽を摘んでしまうのはよくない。

少人数学級の良さを紹介

砂田市議は少人数学級でこそいじめ、不登校、学力低下は解決できると教育現場の声を紹介しました。

学校は、子どもの光るものを見つける場所

ある教師は「学校とは本当は何をするところなのか」と問い、「その子の光るものを見つける、子どものよさをみんなで認める、この繰り返しの中で子どもが息を吹き返していく」。

ところが、今の学級規模では「どうしてあんたはみんなと同じことできないのか」ということになる。「少人数学級にすることで、学校に関わるほとんどの問題、いじめ、不登校、学力低下は解決できる」と実感を込めて語っていた。

南砺市の取り組み

教育長が統廃合に疑問

南砺市の取り組みも参考になる。静岡大学が中心になって行ったシンポジウムの報告書に紹介されている（下写真）。

国から公共施設統廃合の号令の下で、南砺市で九つある小学校、八つある中学校を、小学校４校、中学校２校にするという話がでている。

20人学級が一番よい

これに対して南砺市教育長は「今こんなにいい教育環境、20人くらいの教室がいっぱいあるのに、何であえて統合しようとするのか」との疑問を呈して、旧町・村に学校を残す方向で頑張っている。

特認校

特認校といって、通学区域は変えないが、希望者が市内のどこの学校へでも入学できる制度を取り入れている。

自分を見つける自学の時間

子どもたちが自分のやりたいことを主体的に見つける自学の時間もある。何をしているか、ゴルフ、バトミントン、図工、読書とか、その他、校長室にもいっぱい子どもが来る。中学の先生が言うには、高校の進学先を自分で決められない子どもが多い。自分を見つけ、自己決定する力が弱い、ほんとうに自分がやりたいことをとことんやるのが自学の時間である。